

**令和7年度 第3回こまきこども未来館講座運営会議
会議要旨**

日 時	令和8年2月10日（火）午後6時～7時
場 所	こまきこども未来館 クラブ室（ラピオ3階）
出席者	<p>【委員】6名（※敬称略） 玉置崇、植松浩二郎、岡田真美子、前田愛、采女隆一、宇野章子</p> <p>【事務局】8名 こども未来部長、こども未来部次長、多世代交流プラザ所長、事業推進係員、NPO法人10人村（4名）</p> <p>【傍聴者】0名</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 R7年度講座等実施報告 ・資料2 アンケート調査結果 ・資料3 R8実施計画（案）
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. こども未来部長あいさつ 2. 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・第2回会議における要望について 3. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和7年度講座等実施報告について (2) 令和8年度講座等実施計画（案）について 4. 今後の進め方
会議要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>こども未来部長あいさつ</u> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議にて令和9年度以降のこまきこども未来館（以下「未来館」という）の運営のあり方についてご意見をいただいた。市としても、いただいた意見をできる限り尊重し、より適切な運営方法となるよう検討を進めている。今後も必要に応じて皆様に相談させていただくことがあると思う。その際はよろしくお願ひいたします。 ・3月6日に開館5周年を迎える。新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、現在は、当時からは想像もできないほど毎日こどもたちの元気な声で溢れている。令和6年度に引き続いて年間来場者数目標の30万人を達成する見込みである。 ・体験ひろばにおいても10人村による地域の企業や団体への積極的に声かけを通してなど、日々試行錯誤を重ねながら利用者のリピートに繋げている。今年度の利用者アンケートにおいても多くの利用者が「未来館は楽しい」と答える結果となり、未来館に関わっていただいている皆様のおかげだと感じる。 ・今年度の実績報告と、来年度の計画案に対し、より充実した講座等の実施に繋げていきたい。それぞれの見地からご意見をいただきたい。 2. <u>報告</u> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回会議における要望について

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回会議において、こども未来館全体の運営を一本化することに賛成いただき、そのための契約や事業者選定の制度について、任意指定やこまき市民文化財団のような別組織による運営など、適切な運営方法を検討してほしいとの要望をいただいた。 ・現在、市では、未来館が開館から5年が経過し、混雑状況の予測や効率的な人員配置方法も概ね確立出来てきたことから、現在の委託契約期間が終了する令和8年度末をもって全館を指定管理に移行し、更なる効率的な運営を図ることを検討中。仮に指定管理に移行した場合、原則は公募での選定だが、例外的に「地域に密着した団体、あるいは地域に根ざした活動をしている団体に管理を任せの方が、地域の復興及び活性化が期待できる場合」「市長が特に必要と認める場合」等に任意指定が認められているため、任意指定が可能かどうか、についても併せて検討している。 ・このことは昨年12月の小牧市議会第4回定例会において、小川真由美議員の一般質問「大人気のこまきこども未来館について」の中で、今後の運営について問われ、市の考え方として、こども未来部長から答弁をした。 <p>《質疑応答》</p>
玉置会長	『任意指定』について再度補足説明を。
事務局	施設の管理運営を委ねることを『指定管理者制度』という。指定管理者を選定する際に、不特定多数の企業や団体からの提案書を基にプロポーザルを実施する方法と、特定の企業や団体を候補者として直接指定する方法がある。後者が任意指定である。原則は公募による選定となるが、報告のとおり一定の条件を満たした場合、例外的に任意指定による選定を行うことができる。
玉置会長	その最終判断は市長がするのか。
事務局	最終判断は市長。まず、施設を指定管理にすることの条例案を議会に諮る。可決されれば、任意指定ができる条件に該当するかを判断し、特定の団体に任意指定をすることの方針を市長に承認を得るかたち。
事務局	<p><u>3. 議題</u></p> <p><u>(1) 令和7年度講座等実施報告について</u></p> <p>※事務局より資料1の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の来館者アンケートでの今後やってみたいことという問いで「からだをつかうこと」という回答が多かったことを受け、専門講師講座として運動遊びのプログラムを開催。 ・こども企画では新しく『こども商店』を実施。今日までに3回実施し、回を重ねるごとに参加人数が増えている。 ・交流体験 CAMP の開催数は年度末には300回以上になる予定。今年度も新

	<p>しく協力してくださった企業が多くあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『こども Agora 未来年表ワークショップ』では未来館にて「未来のロボット」をテーマにワークショップを開催。その後、大人がこどもたちのアイデアを持ち帰り実現方法を検討、大人が考えたアイデアをこどもと一緒にさらに発展させるという共創を実現。 ・地域児童館との連携として未来館で行っているワークショップの出張講座を開催。各児童館の作品を未来館のデジタルラボ1に投影し、1,500人以上が見に来た。 <p>《質疑応答》</p>
前田委員	<p>こどもたちの意欲や関心が向けられるような企画が提案されていて、いつ来ても楽しめる環境がとても良いと感じる。自分のこどもにもこんなものがあるよと伝えたい。</p>
采女委員	<p>学校連携の面では、小牧小学校を中心に1年間ご協力いただきとてもありがたく思う。探求的な授業のあり方等について振り返る機会があったが、こどもたち一人ひとりが自分の興味、関心から学びをスタートさせることの大切さを改めて実感し、その可能性についても様々な意見が出た。初年度を終え、次年度に向けてどう考えていくか、具体的にどう連携していくか、課題はたくさんあるが、こどもたちの輝いている姿を見ると、学校教育の中で1つの力として集約させ、繋げていければと思う。</p> <p>「JUMPOUT! Project」は何度か直接活動を見たが、ほんの数カ月で視点が変わっていたり、体験したことを自分の生活に取り入れて次を見越していたりと、その姿に感銘を受け、学校教育の中で一律化するのではなく、「好きを育む」というキーワードが大切なことを実感した。</p>
宇野委員	<p>『HADO』を実際に体験したが、こどもの興味をひきながら体を動かす仕掛けがある部分が良いと感じた。</p>
岡田委員	<p>たくさんの講座があり、自分自身も参加したいほど。「惑星をつくる出張講座」にも地域児童館で参加した。未来館がすこし遠い地域に住んでいるため地域児童館との連携もとてもありがたい。『あそびアイデアチャレンジバトル』などこどものうちから地域に根差した企業を知る機会があることを魅力に感じる。</p>
事務局	<p>各児童館にすべての児童館でつくられた星系をまとめた冊子を配布しているので良ければご覧ください。</p>
植松委員	<p>内容や切り口も多岐にわたった講座を企業等も巻き込みながら熱心にやられていることは素晴らしい。職員は大変だと思うが、楽しそうでもある。講座ひとつひとつの説明に「学校や家ではできない体験」「毎日来ても飽きない、たまに来てもやりたいことが見つかる」「こども自身で主体的に企画・運営に参画」といった講座の目的や目指す方向がはっきりとしているものも</p>

	<p>あるが、「こんなことをしました」「あんなことをしました」というだけのものが少なからず見られる。講座の目的をはっきりとさせて、Vision や Value にどう繋がっているのかを評価することも大切ではないか。</p>
玉置会長	<p>水面下の準備や安全面への考慮も含め、全面的によくやっているなど感じる。植松委員の発言にもあったが、教育の現場においても「この授業を通して子どもをどうしたいか」という思いが見えてこないものが多い。次の学習指導要領の大きなキーワードは「好きを育み、得意を伸ばす」。まさに未来館が合致しているように感じる。ただ、講座を子どもたちがどう選んでいるかを追跡し、より具体的に出てくるとさらに良い。</p>
	<p>【議事 (1) ⇒ 承認】</p>
事務局	<p><u>(2)令和8年度講座等実施計画(案)について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門講座ではアンケートの回答に多かった「運動あそび」や「音楽」などを予定している。それぞれ既に開催はしているものの、参加したい内容ではないのか、周知ができていないのか、再度子どもたちの意見をききながら内容を設定していきたい。 ・職員講座では、発達や成長に応じた内容であるだけでなく、講座から日々の生活に結び付けられるような連続講座を計画。 ・子ども参画として『こまき冒険スライム村』を中心に日々の子どもたちの「やってみたい」を地域やサポーターと協力しながら実現していきたい。
玉置会長	<p>企業の方など、日頃子どもと接していない方が協力してくれることはうれしいが、専門的な言葉を使うなど、子どもたちにとっては苦痛な時間になることもある。そういった点へはどう工夫しているか。</p>
事務局	<p>いかに子どもたちに「おもしろい、ワクワクする」と感じさせるかだと考えている。実際に、企業が提案する内容は難しく、単調なものも多いが、そのままにせず大人もワクワクしながら一緒に考えて企画することで、楽しく遊びながら学べる環境をつくるよう心掛けている。</p>
植松委員	<p>アンケートの目的が講座の改善点を整理することとなっているが、その項目の多くは「講座運営」という観点から考える的を射たものになっていないのではないか。開館から5周年が経つこのタイミングで「5年間こういう想いで取り組んできて、こういった価値を生み出した」という実績をもってMission『未来リテラシーを育む』を振り返って見直してみても良いのでは。</p>
玉置会長	<p>大切なのは振り返りであり、足りないのはこどもの声。報告に学びの連続が見えづらい。自分で自分を振り返って自分を成長させる人間にすることが重要。</p>
	<p>【議事 (2) ⇒ 承認】</p>

4. 今後の進め方

- ・次第2で報告した通り、現在、未来館の委託契約期間が終了する令和8年度末をもって全館を指定管理に移行し、併せて任意指定が可能かどうかを検討中。今月新たな市長が選ばれるが、事務局としては当会議や児童館運営委員会の意見を尊重し、こまき市民文化財団のような別組織による運営についても検討していきたいが、今後は新市長のもとで判断を仰ぐこととなる。
- ・指定管理、任意指定、別組織の設立など、未来館の運営にかかる大きな方針となるので、こども子育て会議においても承認を得る必要があると考えている。令和8年度は、こども計画の中間見直しを行う時期のため、必要に応じて、こども子育て会議の議題とし、中間見直しに盛り込むことを予定。

玉置会長

新市長の判断を仰ぐことになるが、これまで話し合ってきたことが反転するようなことがないよう、事務局が支えていくと理解。